

犬、ねこの処分^{ゼロ}を目指して（第一報）

鳥取県中部総合事務所福祉保健局（倉吉保健所） ○吉田正彦

I はじめに

平成12年12月、動物の愛護及び管理に関する法律（以下「動愛法」という。）の一部が改正され、鳥取県においても、県民から意見を募集し反映させた鳥取県動物の愛護及び管理に関する条例（以下「条例」という。）が制定され、平成14年4月1日から施行している。

この条例は、県民へ動物愛護精神の高揚を図ること、動物の健康を保持すること、動物からの危害を防止すること及び公衆衛生の向上を図ることをもって、人と動物が共生する社会づくりを目的としている。

今回、この人と動物が共生する社会づくりの目的を達成する一つの方法として、鳥取県における犬、ねこの現状と県の取り組み事業等を県民へ情報提供し、協力をいただくことが大切と考え、保健所に保護・引取りされる犬、ねこの処分がゼロになることを目指して報告する。

II 県内の過去5年間における犬、ねこの状況

1 犬の新規登録と狂犬病予防注射実施頭数（表1）

平成15年度を除き、毎年約2,800頭が新たに飼育、登録され、約2万1千頭の犬に狂犬病予防注射が実施されている。

表1

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
犬の新規登録頭数	2,889	2,704	2,749	2,724	2,229
狂犬病予防注射頭数	20,533	20,764	21,133	20,755	20,347

2 犬に係る相談件数（表2）

飼い犬に係る相談は平成12年度に増加し、その後は年間約800の相談が保健所に寄せられている。

野犬等（所有者の判明しない犬）に係る相談は年々減少の傾向にあり、平成13年度から飼い犬に係る相談件数を下回り、5年前に比べると半数以下となっている。

表2

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
飼い犬相談件数	579	802	774	781	838
野犬等相談件数	1,030	736	748	547	486
計	1,609	1,538	1,522	1,328	1,324

3 犬の保護・引取り頭数及び処分頭数等（表3）

保護・引取り頭数は毎年減少の傾向にある。

保護した犬をその飼い主へ返還した頭数は毎年約100頭である。

県民への譲渡頭数は年々増加していく傾向にある。

処分頭数は、保護・引取り頭数に比例して、毎年減少の傾向にある。

表3

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
保護頭数	1,566	1,392	1,207	932	1,024
引取り頭数	1,096	880	854	644	633
返還頭数	93	102	105	101	101
譲渡頭数	106	101	118	152	166
処分頭数	2,463	2,069	1,838	1,323	1,390

4 ねこの引取り頭数及び処分頭数等（表4）

平成12年度までのねこの引取り頭数は約2,000頭であったが、平成13年度から約3,000頭と急増している。

県民への譲渡頭数はねこの引取り頭数と同じく平成13年度から増加している。

処分頭数は、引取り頭数に比例して平成13年度から急増している。

表4

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
引取り頭数	2,052	2,038	2,911	3,151	3,178
譲渡頭数	24	20	41	71	53
処分頭数	2,028	2,018	2,870	3,080	3,125

Ⅲ 倉吉保健所における飼い犬、飼いねこの引取り依頼等（平成16年4月及び5月）

1 飼い犬の引取り依頼等（表5）

引取り依頼理由は「犬が病気になった」が3件と半数を占め、依頼後の飼育動物はなく、「また飼育したいか」の問いには「いいえ」が5件「わからない」が1件であった。

また、犬の登録と狂犬病予防注射は、4頭が実施しており、2頭は実施していなかった。

表5

引取り依頼理由	年 令	依頼後の飼育動物	また飼育したいか	登録、注射
犬が病気になった	7才	なし	いいえ	有
犬が病気になった	11才	なし	わからない	無
犬が病気になった	12才	なし	いいえ	有
飼い主が病気になった	12才	なし	いいえ	有
飼い主以外の家族を咬む	15才	なし	いいえ	有
飼えなくなった	6才	なし	いいえ	無

2 飼いねこの引取り依頼等（表6）

引取り依頼理由は「育てられない」という、子ねこの引取り依頼が4件、親ねこの引取り依頼が1件であった。

子ねこの引取りを依頼した4家族で複数の親ねこを飼育していた。

不妊手術を実施するか聞き取りに4家族の飼い主が「する」と回答し、動物病院に予約をしていると答えた飼い主が2家族あった。

表6

引取り依頼理由	引取り頭数等	依頼後の飼育動物	不妊手術を実施するか
育てられない	子ねこ5頭	親ねこ4頭	する
育てられない	子ねこ3頭	親ねこ1頭	する
育てられない	子ねこ3頭	親ねこ3頭	する
育てられない	子ねこ4頭	親ねこ2頭	する
飼育する元気がなくなった	親ねこ2頭	なし	

Ⅳ 条例設定後の取り組み

1 新たな条例の県民への周知

条例に関するリーフレットの配布、新聞、テレビ等を用いた県民への広報、動物取扱業者、開業獣医師への周知、市町村担当者等への研修等を実施した。

2 動物愛護フェスティバルの開催

毎年9月20日から26日の動物愛護週間を利用して、県民へ動物愛護精神、動物の習性等の普及啓発を図る。

平成15年度は、県民から人と動物のふれあい写真及び川柳を募集して、知事表彰等を実施、倉吉未来中心のフリースペース等で作品の展示を行った。

3 動物ふれあい教室

鳥取県愛玩動物飼養管理士会と連携し、県内の小学校へ出向き飼育動物を中心にその習性、ふれあい方法を講習し、動物愛護精神の啓発や人獣共通感染症等動物からの危害防止等の知識を普及している。

4 犬、ねこの譲渡

平成15年度から、保健所に保護・引取られた犬、ねこについて、県で「犬、ねこの譲渡実施要領」を定め、適正に飼育できると認める新たな飼い主への譲渡を推進している。

なお、この情報は、保健所で保護された犬、ねこの情報と同じく、県環境政策課及び各福祉保健局のホームページで紹介している。

5 飼い犬のしつけ方教室

鳥取県獣医師会と連携し、条例設定前は飼い主と犬20組を対象に年間1回1地区で実施していたが、条例設定後は東部、中部、西部の3ヶ所で飼い主と犬60組を対象にしつけ方教室を開催している。

また、このしつけ方教室は、県内の指定された動物病院でも個別に開催されるようになり、飼い主が希望すれば受講することも可能となった。

V まとめ及び考察

- 1 県内の犬の飼育頭数は、狂犬病予防注射の実施頭数が毎年ほぼ同じでことから一定の数で推移していると考えられる。
- 2 野犬等に係る相談件数の減少とともに犬の処分頭数も減少しているが、現在も年間犬、ねこ約4,500頭が処分されている。この犬、ねこは処分されるために生まれてきたのではない。
- 3 この処分頭数を減少させるためには、犬、ねこを飼う前に、病気の治療費、避妊・去勢手術費、十年以上付き合うという意識が必要と考えられる。
- 4 ねこの引取り頭数は平成13年度に急増しているが、これは平成13年度から動愛法が保健所業務となり、所有者の判明しないねこの引取りを実施していることによると考えられる。
- 5 平成15年度の犬の譲渡数は166頭で、新たに飼育、登録された犬の数が2,229頭であることから、単純に計算すれば約7.4%にあたる。
このことは、保護・引取りされた犬の生命を救うことのみでなく、要領に基づく譲渡を実施することで、地域における他の飼い主への適正飼育の普及啓発にもつながることから、その効果は大きいと判断される。
- 6 飼い主マナーの向上には、一般県民へ情報提供し動物に関心をもってもらわなければならない。
- 7 今、この場所から動物愛護の和を広げていきたい。